

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成28年度農作物病虫害発生予察情報について

平成28年度農作物病虫害発生予報及び月報を発表したので送付します。

平成28年度農作物病虫害発生予報第1号

平成28年5月2日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生時期 平成よりやや早い(前年よりやや早い)
発生量 平成より多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月後半の巡回調査では, 発生圃場率が50.0%, 本田生息虫数が6.1で, 平成(5.8%, 0.3)に比べて高めの発生である。
- (2) 4月28日発表の1か月予報では, 天気は数日の周期で変わり, 平成に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に, 期間のはじめは気温が高くなると見込まれている。気温は高く, 降水量は多く, 日照時間は平成並か少ないと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し, 育苗箱施用を行っていない圃場において成虫が多発した場合には, 薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので, 深水を避け, 根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

赤星病

1) 予報内容

発生量 平成並(前年よりやや少ない)で, 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月後半の巡回調査では, 発生圃場率が62.5%で, 平成(28.7%)に比べて高めの発生であるが, 発病葉率は4.1%であり, 平成(4.4%)並の発生である。
- (2) 4月28日発表の1か月予報では, 天気は数日の周期で変わり, 平成に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に, 期間のはじめは気温が高くなると見込まれている。気温は高く, 降水量は多く, 日照時間は平成並か少ないと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し、防除に努める。
- (2) ナシ赤星病は、ナシの開花期前後に降雨が多いと多発する傾向が強く、さらには、開花はじめから落花期にかけて降雨が少ない場合、落花期以降もしばらく小生子が飛散し、遅くまで感染する。本年は開花期前後に降雨が少なかったため、遅くまで感染することが予想されるため、幼果期にも追加防除が必要である。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

- 発生時期 平年より早い
発生量 平年並(前年よりやや少ない)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2015年度の勝浦町における予察灯誘殺数は、8月2半旬までは平年並～やや高めに推移したが、8月3半旬以降は平年に比べて低めで推移した(図1)。上板町では、調査期間を通じて平年並で推移した(図2)。

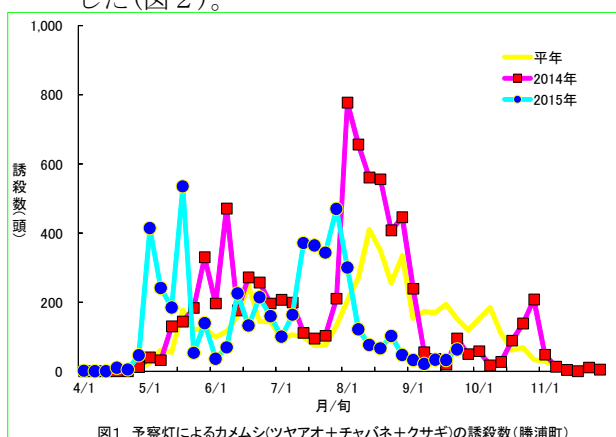


図1 予察灯によるカメムシ(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(勝浦町)

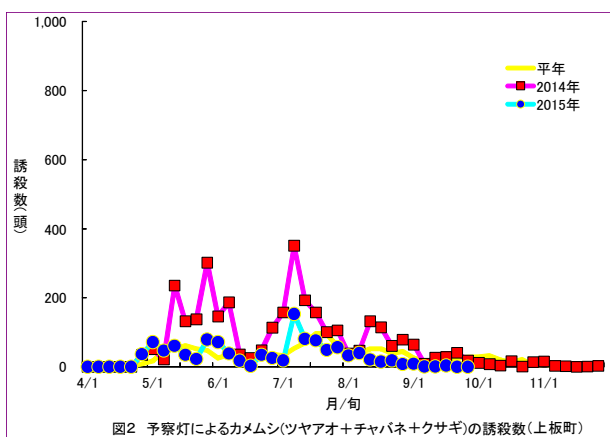


図2 予察灯によるカメムシ(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(上板町)

- (2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、6地点で越冬を確認、越冬成虫は0.2頭/m²であり、前年(調査地点数は11地点×2か所、成虫確認地点数は10地点、越冬成虫数は4.4頭/m²)に比べてやや低めの越冬密度であった。
- (3) 今春の予察灯調査においては、勝浦町では平年(4月27日)より24日早い4月3日に、上板町では平年(4月28日)より22日早い4月6日にチャバネアオカメムシの初誘殺を確認した。なお、4月第1半旬から4月第5半旬までの誘殺数は、平年並で推移している。
- (4) 4月28日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に、期間のはじめは気温が高くなると見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林、特にサクラ、キリ等から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

- 発生時期 平年並
発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%で、平年(3.9%)に比べてやや高めの発生であるが、発病株率は1.4%で、ほぼ平年(0.3%)並の発生である。
- (2) 4月28日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないと見込

まれている。特に、期間のはじめは気温が高くなると見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。
- (2) 葉全体に発生が見られてから薬剤散布を行ってもほとんど効果は見られないので、発生前または発生極初期から、定期的に薬剤を散布して予防する。
- (3) 罹病葉を圃場に放置すると伝染源となるので、速やかに圃場外で処分し、病原菌密度の低下に努める。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月後半の巡回調査では、発生圃場率が71.4%、葉の被害度は4.1で、平年(37.8%、2.2)に比べてやや高めの発生である。
- (2) 4月28日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に、期間のはじめは気温が高くなると見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月後半の巡回調査では、発生圃場率が71.4%、葉の被害度が4.4で、平年(81.8%、4.0)並の発生である。
- (2) 4月28日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に、期間のはじめは気温が高くなると見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発し、残暑が続くと秋口にも発生が多くなる。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。

